

「子育て支援パスポート事業 全国共通展開フォーラム」事例発表 議事録

平成 28 年 10 月 24 日

「きょうと子育て応援パスポートアプリまもっぷ」 (京都府健康福祉部少子化対策課 三村久美子氏)

三村: こんにちは。京都府健康福祉部少子化対策課の三村と申します。よろしくお願いたします。実は、このまもっぷをテーマに今回 2 回目、2 年連続になるんですけれども、スマートフォンアプリであるということと、子育て支援 NPO との連携という部分で、主催の内閣府さまより熱いラブコールをいただきましてこの場に立たせていただいております。大変光栄な事でありありがとうございます。

さて、私、少子化対策課と申し上げましたが、私ども京都府では少子化が進行しておりまして、合計特殊出生率が 4 年連続で全国ワースト 2 位(発表時点)という厳しい状況でございます。内閣府さまの交付金も活用させていただきながら、結婚支援、子育て支援、さまざまな少子化を食い止める取組を進めているところではございますが、今回発表させていただくまもっぷ、発想が一味違います。私の名前の上にもう 1 人職員の名前を書かせていただいております、本日都合により出席がございませんでしたが、この職員が思いを温めまして、さまざまな方のご支援をいただきながら形になった取組です。

私、立ち上げ本人ではございませんで、お聞き苦しいところもあるかもしれませんが、さっそくまもっぷの誕生から話を進めてまいりたいと思います。

まずこのまもっぷなんですけれども、子育て中の職員の気付きからスタートいたしました。待望の赤ちゃんが生まれ、旦那さんは仕事に行きます。すると奥さんは生まれたばかりの赤ちゃんを 2 人きりの日々が続きます。次第に、赤ちゃんはかわいいけれど息が詰まる。旦那さんは仕事で社会とつながっているけれど、私は 1 人ぼっちなんじゃないか。奥さまはそういう気持ちになられたそうです。そして外出がしたいという思いが募られるようになったそうです。しかし、いざ外出をしてみると、ベビーカーで入れなかったとか、泣いている赤ちゃんを抱えて授乳場所が見つからなかった。レストランに離乳食を持ち込むとぎょっとされて、何か非常識じゃないのみたいな感じで見られた。もう外出なんて嫌だという気持ちになられたそうです。

そしてめでたく数年後、待望のお 2 人目が生まれます。お父さんは仕事、お母さんは生まれたばかりの赤ちゃんを 3 人の育児の日々ですが、子育てパスポートの取組も進んで、この数年の間、いろんな子育て支援の取組が進んだので、きっと良くなったはずであろう、外出がしたいという思いを抱え、意気込んで外出をされたそうです。

すると、何かどこかで見たとような、あんまり変わってない事に気が付いた。今も昔も同じ事で悩んでいる。そういう状況だったそうです。そこでその職員が決意をいたします。この現状を何とかしたい。

この 3 つがございしますが、京都府が課題を解決したいという思いで、左下、支援者としてのノウハウや当事者としての目線をお持ちの子育て支援 NPO さんに声掛けをして、また市町村も巻き込んで、平成 25 年 4 月に研究チームを結成いたします。そしてまず現状把握ということで、子育て世帯にアンケートを実施します。外出する時にお出掛け情報が少ないと感じている親は約 6 割いました。また外出する時、8 割以上の親御さんがインターネットで情報収集をしている事や、子育て中の親御さんの携帯電話、7 割

がスマートフォンだと分かり、スマートフォンを活用した情報提供を行っていかようになります。そうと決まれば、知事にプレゼンをしまして、今すぐ、そして簡単に情報を手に入れられるスマートフォンアプリを作る予算を獲得します。

そして、左、子育てNPOと行政に加え、技術を持っているIT事業者もこのチームに入ってもらって開発に着手をいたします。さらに府内の子育てNPOの17もの団体さまにアプリに掲載する店舗や公園、公共施設などいろんな情報を収集し、コンテンツを制作していただきました。そして、協働作業の末に、ついにまもっぷが完成いたします。これは完成した次の春に開発の記念打ち上げをした時の集合写真です。

こうやって完成したまもっぷなんですけれども、特徴をご紹介したいと思います。まずポイント1つ目、子育て応援パスポートとの連携です。京都府でも平成19年度から子育て支援パスポートの取組を進めてまいりましたが、その協賛店の検索機能ですとか、パスポートの登録、提示機能を搭載いたしました。それで、このまもっぷがお出掛けのお供となり、より便利に協賛店舗の思いが届くようになりました。

そして2つ目、スマホアプリというところです。お出掛け先でもすぐに見られるという所がポイントになります。授乳場所を探すのが大変、子供用トイレが見つからなくて、もう外出は嫌だと思ったお父さん、お母さんに是非使っていただきたい。アプリを起動すれば、GPS機能を搭載していますので、瞬時に周囲のスポットを検索できます。ちょっと小さくて見にくいかもしれませんが、現在地の地図の周りにいろんなマークのピンが立っていて、これがお子さま用のトイレがある場所とか、特典が受けられる場所ということで、周囲のスポットを表示しています。もう不安を感じる必要がないということで、すぐに分かる所がポイントになっています。

そして3つ目。本当に役立つ情報を提供ということで、これまでは単にここに協賛店がありますよという検索システムは有ったんですけれども、単にそこに有るということだけではなくて、例えば、今、丸印の付いている所ですけれども、協賛店の、例えば、店長さんとか、実は私も子育て中です。いや、孫育て中です。子供が大好きです。そんな情報を協賛店になっていただく時にこちらの方にもらうことで、子育て家庭の方が直接目にする所にその情報を掲載する事ができます。

また、右の所ですけれども、こちらは閲覧数ですとか、お気に入り数ということで、数を表示しています。たくさん見られているページとか、たくさんの方が使っているお店というのが分かるようになっていて、子育て家庭の安心感につながっていると思います。

また、これが各協賛店舗の紹介ページの下の方に出てくるアイコンなんですけれども、子育て支援情報ということで、子連れでお出掛けされる時に、本当に必要な所、幼児用の便座があるとか、離乳食が持ち込める、粉ミルク用のお湯が提供してもらえる、そんな所がアイコンで表示されるようになっていきます。もちろん先ほどGPSで地図で検索できるという所をご紹介しましたが、こういう子育て対応情報一つ一つで検索を掛ける事もできます。

そして、この下の所、各SNSとの連携ですとか、コメント機能も付いていますので、お母さんたちがお出掛けをする時はまもっぷで情報共有していただきたいという思いもございます。他にもパパママ目線で発信しているとか、お店の情報だけではなくて、医療機関情報、救急機能も搭載をしています。

「まもっぷの今後」という所ですが、平成28年4月から全国共通展開を開始いたしました。これを機

にもっと多くの子育て家庭をもっと応援できるアプリに進化させてまいりたいと考えております。そこで、まず1つ目ですが、子育て応援店舗を増やすとともに、掲載情報の質を向上させたいと思っております。先ほど申し上げました通り、京都府の子育て応援パスポート事業、平成19年から開始をいたしまして、もうすぐ10年を迎えます。おかげさまなんですけれども、中には、入ったきり、何だっけなというお店がある事も事実です。せっかく子育てを応援したいという思いを持って入っていただいているお店さんですので、まもっぷに載ればお客さんが来ると。それぐらいのアプリにしたいと思っております。

そこでたくさんのお店や施設と意思を共有して、子育て支援のノウハウを知っていただくということで、今回、全国共通展開の機会を捉えまして、全協賛店舗、ただいま3,500ぐらいいらっしゃいますけれども、フレンドリーメニュー実施、それから全国共通展開の働き掛けを行っております。特に子育て対応情報という所は、それだけでマップに出せますので、お店のPRにさせていただくという意味でも、もう一度確認を行っているところです。

さらにこれまでは協賛金も特にいただくず、店舗さんや企業さんの善意で協賛いただいているということで、これまではまもっぷでも横並びでのご紹介しかできていませんでした。それはベースは変えないんですけれども、今後パパママ目線で取材をしていただいて、紹介記事をまもっぷで発信をしていく事で、特に一押し、もっと頑張っている店舗さんを紹介していきたいと考えております。

2つ目。より日常的ローカルな情報ということで、家族のお出掛けなんですけれども、週末に予定を立てて、車を出して、いざ行こうというお出掛けだけがお出掛けじゃないと思っております。日常的にちょっと買い物とか、ちょっと子供と散歩とか、そういうお出掛けの時にこそ使っていただけるアプリにしたいなと思っております。

そこで、よりパパママの日常に寄り添えるように、モニター調査を実施したいと思っております。毎日見たいアプリを目指して、こんな情報が欲しかった。こういう情報が載っていればいいなとか、こういうのがあればもっと使い易いという声を聞いていきたいと思っております。さらに地域のローカルニュースを執筆するまもっぷライターさんも引き続き育成をしていきます。

そして最後3つ目に、継続的な財源の確保ということで、このまもっぷ、子育て支援NPOさんをはじめ、多くの方々の参画をいただいて形になったものです。おかげさまで会員登録、もうすぐ4万人を迎えます。これをずっと続けていくために、システムを稼働しているだけでは味気のないアプリになってしまいますので、常にきめ細やかで、パパママ目線で、新しい情報を載せていきたいと思っておりますので、継続的な財源の確保にも努めていきたいと思っております。

最後、ちょっと大きなタイトルですが、まもっぷから広がる未来、ということです。このまもっぷなんですけれども、実は名前に由来がございまして、このマークを見ていただくと、ちょっと分かるかもしれないんですが、お守り、お出掛けの時のお守りと、電子マップのマップを掛けて「まもっぷ」という名前になっています。子育て家庭に安心してお出掛けしてもらいたいというものなんですけれども、この出発点、お出掛けできなかったとか、したけど嫌な思いをしたとか、つらい気持ちが出発点になっています。

京都府では、今年度、結婚、子育てを応援する機運を作っていきたいということで、さまざまな取組を行っています。写真募集、動画募集、条例も作りまし、婚活センターも動き始めました。ただ、こんな取組の中でも、やはりまもっぷは行政と子育て家庭と民間のお店、企業さま、子育て支援NPOの思いが形になった重要な役割を担っていけるツールだと思っております。これを軸の一つとして、これからも

機運の醸成に努めてまいりたいと思います。以上です。ご清聴ありがとうございました。

渥美：ありがとうございました。やっぱり今、携帯、PC 世代の若いパパ、ママにアプローチするには、こういうスマホ用アプリというのは非常に有効だと思います。京都府さんの作られているまもっぷはすごい出来栄で、これはやっぱり情熱を持った行政担当者と、後、地域で活動しているコンサルティング NPO のネットワークですね。そもそも子育てのリアルな情報を持っている NPO と組んで、そこに IT 事業者という、そもそも三位一体みたいに、とてもそれぞれの強みを持ち合っとうまくいっている事例だと思います。

ここまで利用者が増えた、4 万を超える登録数という、これは予想していた事なんですか。

三村：目指していた数より多くの方に登録していただいたという状況です。

渥美：本当にそういうふうに、そもそもスマホアプリを通じてつながると、いろんな情報を行政が提供できるようになります。それこそ孤立の子育て回避につながるような情報も行政から一人一人にきめ細やかな、お子さんは何カ月になりました、何歳になりました。こういう健診が地元でもたれますという所で、虐待予防であったり、子供たちを社会全体で守るツールとして活用されているというふうに思います。

京都府さんでは今後の展開をどのように考えておられるのでしょうか。

三村：これは両輪だと思っているんですけども、利用できる店舗を増やす事。それから利用者を増やす事によって、より企業さま、店舗さまにとってはおいしいツールになるように。利用者の方にとっては、心温まる優しいサービスになるように、両方とも進めていきたいと思っています。

渥美：まもっぷライターみたいに、本当に単なる利用者じゃなくて、それからの声もまたサービスの向上というような好循環も生んでいる。すごく工夫されている取組だと思います。素晴らしい取組を発表してくださった三村さんにもう一回拍手していただければと思います。ありがとうございました。